

Yuzuru Hanyu ICE STORY 3rd “ Echoes of Life” TOUR

セットリスト&公演ディテール

※赤字は埼玉公演から広島公演でストーリー上変わった部分

※広島公演から千葉公演で変わった部分はとくになし

(ただし、演技・振り付け・演出は公演ごとにどんどんスラッシュアップしていました。そのディテールまでは書いていません・・・)

(本 PDF は Ver.3 から誤字脱字を修正&アンコールを追記し、Ver.4 としています)

[第1部]

スクリーンに「VGH-257 Nova」の文字。
女性たち（イレブンズレイ）がカプセルの中で踊っている。
スクリーンにカプセルの中の Nova が現れる。
それが上に上がっていく。

スクリーンにプログラム言語。
そして日本語テキスト。

「わたしは、何も知らずに目を覚ました。
記憶は朧げで、何故ここにいるのか、
なんのために存在しているのか、
その理由すらもわからない。」

Nova を乗せたカプセルはどんどん上へ上がっていく。

スクリーンに再びプログラム言語。
そして日本語テキスト。

「街のはずれ。目に映る人々が、物のように動く。
太陽、星、月、宇宙。
吸い込まれていく。包まれていく。溶けていく。
視界が白に染まっていく。」

Nova を乗せたカプセルが止まる。

目を開け、手を上げ、指を広げる。

「VGH-257 Nova」の文字。

Nova「わたしとは何だ。何のためのわたしなのだ。
わたしの生とは、命とは何なのだ。」

01 プログラム「First Pulse」

(平松建治氏作曲のオリジナル/ゼノスレイド、FINAL FANTASY XV等を手がけている方)

Nova「わたしは開ける。この身体と命を持って。」

スクリーン下の扉を開く。

現れたのは、未来っぽい廃墟の世界。

その中をNovaは歩いている。

そこに「Written by YUZURU HANYU

YUZURU HANYU as VGH-257 “Nova”」の文字が映し出される

Nova「わたしがこの世界に関して理解していることは、ほぼない。

少しでも情報が欲しかったわたしは、丁寧に整頓されていたファイルを慎重に読んだ。

VGHとは、遺伝子を操作し、能力に専門性を持つように調整されて生まれてきた人間のことらしい。

つまり、あのカプセルが示していた文字から、わたしも作られし者だということのようだ。

なぜ生まれてきたのだろうか。」

歩いていたら、枯れた木に出会う。

Nova「私の眼前で朽ち果て、砂に帰ろうとしているこの木も、元は命を宿していた。

いまは何も宿していない。器でしかない。」

枯れた木が消える。

NOVA「命とは、なんだ？

じっとしていられなくなったわたしは走り出していた。

心臓が高鳴る。ありえないリズムが体中に鳴り響く。

けだたましいリズムの奥底で、たしかに全身にこだまする音。

その音がわたしを包み、やがてリズムを支配する主旋律となった。」

「YUZURU HANYU ICE STORY 3RD

Echoes of Life」

(メインタイトル)

NOVAの背中がアッスで映る。
背中には英語で何かが長々と書かれている。
どうやらNOVAの設定が以下のように書かれている模様。

Nova (VGH-257)

was the symbol of the VGH rebellion and its most powerful weapon. In the later stages of the war, due to mental damage and the rampage of its powers, it was no longer able to fight and once again went to sleep in the lab. Nova wakes up from a long sleep, losing all of his memories and once again setting out on a journey to find the meaning of his existence.

(訳：Nova (VGH-257) はVGH反乱軍のシンボルであり、最も強力な兵器でした。戦争の後半では、精神的ダメージと力の暴走により、もはや戦うことができなくなり、再び研究室で眠りにつきました。Novaは長い眠りから目覚め、すべての記憶を失い、再び自分の存在の意味を探す旅に出ます。)

Nova「生まれるとは、何？」

いつの間にかNovaは複数の扉と書庫がある白い部屋にいる。
Novaは椅子に座る。
そこに煙のようなものに巻かれた誰かがふーっと現れる。

ルームの案内人「貴方をお待ちしておりました。
ここはルーム。命の言葉と文字の部屋でございます。
貴方のご自身が持つ特別なチカラに目覚められました。
音のチカラ、貴方は言葉や文字を音として感じ、その身に宿すことができます。
貴方が先ほど無自覚に使われた音は、再生の力。
貴方は命の言葉を再生することができます。
この世界の記憶、そこにかつて存在していた命の残響。
いまは貴方の『生まれるとは、何か？』という問いへ言葉を授けましょう。
自身の命の始まり、世界の始まり、それは決して自分では観測できないもの。
観測できないのなら、生まれたことをありありと目の前に証明することは不可能なのです。
貴方ならどのようにお考えになりますか。

貴方が求める言葉、すべてがここにはございます。

そして貴方が考え、求めるままにその言葉と文字たちは、あなたを纏う『音』たちとなるでしょう。

さあ、お見せください。

貴方の、始まりの言葉の『音』を。」

Novaが扉の向こうに行くと、衣装が白色に変わる。

02 プログラム【産声 ～めぐり】

(おおかみこどもの雨と雪より/高木正勝)

再び廃墟の世界を歩く。

銃声の音が聴こえる。

Nova「戦い、戦争・・・

再生された『音』から分かったことは、この世界で人間と作られし者とで戦争が起きたこと、

そしてその後、生物がすべてなくなってしまったこと。

なぜ私は独りだけこの世界にいるのか。

この世界で、私の役割とは何だ。」

ルームの案内人「貴方自らの意思でここに来てくださるとは、

どうやら貴方の中でまた問いが現れたご様子ですね。

申し遅れました。

私はここ『ルーム』の案内人でございます。

貴方が『問い』を持たれた時、『ルーム』の扉は貴方の前に現れます。

私は、貴方の『問い』に対して、

どんな言葉や文字が存在するのかを案内させていただく者でございます。

さて、貴方はこの世界の事象を識りました。

この世界では戦いがありました。

そこにはリーダーのような存在が必要でした。

かの者はリーダーとしてより良い方向へ導こうとする信念と、

実行する勇気、力を持っておりました。

しかし、その信念も力も、世界を識らなければただの強欲な裸の王様に成り下がるだけ。

知識を持って、自らの力と掛け合わせてこそ、役割が与えられ、全うすることが叶うのです。

貴方は『何故、1人だけこの世界にいるのか』、

そして『何の役割があるのか』について『問い』をお持ちになりました。

今の貴方は世界を識りました。

貴方のチカラも識りました。
貴方が考える、貴方の『命』はどんな役割を全うするのでしょうか。
その答えを探すための言葉が、ここにはあります。
お見せください。
貴方の資質と知の言葉の『音』を。」

Nova がドアの向こうに行くと、衣装が薄黄色に変わる。

03 フ로그램【Utai IV ～Reawakening】

(攻殻機動隊より/川井憲次、Steve Aoki Remix)

丸い円空洞の中で女性たち（イレズンスレイ）が踊る。
スクリーンには廃墟を歩く Nova。

そしてスクリーンにフ로그램言語。
その後日本語テキスト。

「きっとここにも、たくさんの人がいたのだろう。
その奇跡を慈しむように、わたしはなぞり、歩いていた。

公園のような場所にたどり着き、ベンチがある。

「ふとベンチを見ると、日記が落ちていた。」

日記を拾い、読む。
すると日記は手から離れ、蝶のように飛び立っていく。
そして日記はページごとに分解され、宙を旋回する。
そこに子どもの笑い声がかふる。

Nova「ページを右手から左手に送っていくごとに、喜怒哀楽と愛が『音』となり、再生されていく。
公園には温かい空気が満ちていた。
この日記を書き記していた人だけじゃない。
この世界で生きていた人たちは・・・数字じゃない、登場人物 A じゃない。
みんなが、みんながそれぞれ持つ人生のハイライトがあった。
生きていたのだ。」

スクリーンは公園のような場所の切り絵っぽいイラストに変わる。
そこに Nova がいる。

Nova「わたしにはもう聴こえていた。
この都市に、この世界に、残されてしまった憎悪たち。
きっとわたしが再生してしまったのだ。
正しさや正義を持たないと、信じないと人は戦えない。
傷つけられる一方になる。
だから、持とう、正義を。
考え、考え、考え、考えを重ねて、胸を張れる自分の正義を。
勝者だけが正しいと名乗れるのだ。」

公園の風景が日記に閉じ込められ、日記が閉じられる。
その日記を、Nova が手を伸ばしてつかむ。

Nova「さあ来い、世界に取り残された憎悪たち。
私の正義の音をよく聴くといい。」

背中割れたワイシャツにネクタイをした衣装で登場。

04 プログラム【Mass Destruction -Reload-】

(ペルソナ3「通常戦闘曲」より)

スクリーンには廃墟の世界で浮遊する丸いものが映る。

Nova「わたしは戦いで、エネルギーを出し尽くした。
戦い疲れたわたしは、正義を貫けたみたいだ。
世界に取り残されていた憎悪の音は聴こえなくなっていた。」

丸い浮遊物は Nova の手の中に取り込まれていく。

Nova「ちゃんと勝利したのだ。
よかった。
よかった。
よかったの？ だろうか？
わたしの『音』のチカラは再生のチカラ。

戦いや壊すためのチカラではないはず。

わたしは、わたしのチカラは、わたしは世界にたった1人で・・・
(以降、「わたし」を使った言葉がこだまする)」

「再生」「何故」「世界に」「正義を貫く」「壊すため」「信念」「勝利」・・・といった文字が浮かび上がる。
さらに「取り残された憎悪たち」などといった言葉が氷上に書かれる。

その後、Novaの全身が映し出される。

そこに「VGH-257」と「わたし」のテキストが交互に点滅。

Nova「『わたし』とは、何？

わたしは、わたしを見つけたい。」

ルームの案内人「これはまた難解な『問い』でございますね。

あなたはどなたかの人生を歩みたいとお思いになられたことはございますでしょうか。

あの人の人生だったらと思うことも、ただ思いを馳せることもあるでしょう。

しかしながら、貴方は貴方をどこかのタイミングで選んでしまっているのです。

今お話をさせていただいている貴方はもう、紛れもない貴方なのですから。

故に、貴方が貴方であることを引き受けなくてははいけないのです。

まるで示し合わされていたかのようなこの事実を、

長い時間をかけ、回り道をしながら、心の臓で飲み込んでいく。

これには貴方が貴方であることを超えて、

貴方を襲ってくる数奇な事象を引き受けることも含まれております。

それが貴方が貴方を見つけるための手段であり、成長するということであり、

人生、命の旅というところなのではないでしょうか。

『問い』の答えを探すということは、対話によって成り立ちます。

貴方には、私がこちらで、いつでも対話のお相手となりましょう。

それでは貴方の番です。

お見せください。

貴方の、『貴方』という言葉の『音』を。」

05 プログラム【ピアノコレクション】

(清塚信也ピアノ/ジェフリー・バトル振り付け)

(ストーリーはAで始まり、Zで終わる)

「Awake」のテキストと声。

「新たな道を歩む」の手文字テキストが映し出される。

- 6Pieces for Piano, Op.118

:No.3,Ballade in G Minor. Allegro energico (フラームス)

スクリーンに揺らぎ文字のタイプライティングテロップ。

「運命は風、姿をみせずともその風邪に身を委ねて、命は揺れながら進む。」

「Impulse」のテキストと声。

「命の衝動がわたしを動かす」の手文字テキストが映し出される。

- The Well-Tempered Clavier,Book1

:No.2:Prelude and Fugue in C Mainor ,BWV 847 (バッハ)

スクリーンに揺らぎ文字のタイプライティングテロップ。

「歩む道が運命なら、誰がその道を刻んだのか。見えぬ手が、そっとわたしを押ししていく。」

「運命の糸は見えずつも、その指先に絡みつく。解くこともできずに、わたしはただ、絡まれていく。」

「Philosophy」のテキストと声。

「哲学を命に刻む」の手文字テキストが映し出される。

- Keyboard Sonata in D Minor,K.141 (スカルラッティ)

スクリーンに揺らぎ文字のタイプライティングテロップ。

「いま、時は止まる。動き続ける運命の中で、一瞬の静寂が私を包む。」

「Truth」のテキストと声。

「真実を見つける旅へ」の手文字テキストが映し出される。

- 12 Etudes, Op.25

:No.12 in C Minor "Ocean" (シヨパン)

~~スクリーンに揺らぎ文字のタイプライティングテロップ。~~

~~「運命は頑なに姿を変えないなら、わたしが変わろう。世界を変えよう。振り返ったら、希望の光芒がみえるように。」~~

「Zero」のテキストと声。

「全てが始まり全てが終わる」の手文字テキストが映し出される。

- 12 Etudes, Op.10

:No.4 in C-Sharp Minor "Torrent" (ショパン)

スクリーンに Nova の表情アッス。

その前で女性たち（イレフンズレイ）が鉄柱に肘を付きながら踊る。

ルームの案内人「貴方は『いま』を生きている。

その『いま』とはなんでしょう。

『過去』と『未来』とはなんでしょう。

『いま』とは貴方が立っている場のような形をしています。

その場からすべての物事は起こり、その場で消えていく。

決して『いま』という場からは何事も逃れられません。

では『過去』と『未来』とはなんでしょう。

『過去』を具体的に思い出してみてください。

それはいつ起こったことでしょうか。

『過去』を思い出し、形づくることができるのは、『いま』でしかないのです。

同様に『未来』の事象を想像してみましょう。

貴方は決して『いま』という場から逃れられないことにお気づきになりましたでしょうか。

では『運命』はあると思いますか。

身体や脳は意思とは関係なく『生きたい』と動き続けています。

『生きたい』と動くことは、見えない、知らない『未来』へと一歩踏み出すこと。

意思とは関係のない身体や脳の『生きたい』『生きる』が、時間が続くということ。

『未来』があるということの疑いようもない確信も、勝手に作り出しているのをございます。

つまり、運命などないのかもしれませんが。

『いま』の上でしか生きることができず、

未来を勝手に都合よく確信して、踏み出しているだけなのでから。

しかし、わたしは『運命』を信じたいと思うのです。

『いま』という絶え間なく無限の可能性が生まれては消えていく場の上に、

恐ろしいほどもろく、そくりとするほどの偶然の連なりを『運命』と呼んでみたいのです。

『運命』を信じ続けたいのです。

さあ、貴方の『運命』の言葉の『音』を奏でてください。」

06 プログラム【Ballade No.1 in G Minor, Op.23 (ショパン)】

(4S 3A 4T3T の SP 競技フル構成にトライ)

Nova が滑ると赤い線のトレースが引かれる。

次第に不思議なマークが形作られる。

Nova「わたしは、わたしの生きる意味を探したいのだ。」

マークが旗に変わる。

そして Nova が歩く足のアッス。

Nova「歩くたびに身体が痛む。

どこかに向かって歩き続けている。

どこへ行こうというのだ。

もはや思考は、わたしの身体の歩みに追いつくことが困難になっている。

わたしは、わたしの生きる意味を探したいのだ。

突如として、脳にノイズが走る。

『音』が再生されていく。」

スクリーンには旗と人形の隊列風景。

その前でカプセルに入った女性たち（イレスンブレイ）が踊る。

さらにスクリーンにプログラム言語と日本語テキスト。

「綺麗な姿勢で隊列を組む人影。

冷たい風が凧ぐ。

冷たいのか、実際の温度はわからない。

わかる余裕すらない緊張感。」

再びスクリーンには旗と人形の隊列風景。

その前に Nova がいる。

スクリーンにプログラム言語と日本語テキスト再び。

「これはこの場の記憶だ。

わたしがこの場にいるわけではない。

理解していても尚、

わたしの呼吸の『音』すらも許されないような、本物の無音。」

人形の手にはビビが入る。

そして「VGH-257 Nova」のテロップ。

そこにけだたましい警告音が鳴る。

Nova は耳を塞ぐ。

Nova 「なんとなくわかっていた。

『VGH 257 Nova』という存在がなんなのか。

この『音』のチカラが、再生のチカラが、何の目的で作られたのかを。

わたしの役割を。

案内人と探してきた『問い』への答えたちは、戦うべきだと頭の中でわたしを奮い立たせようとする。

『わたしたちは信じている』と心に訴える。

わかっている、これもまた『問い』。

そしてこの『問い』への答えは、まっすぐ認めて、受け止めて、戦うことだ。」

スクリーンには大勢の人形たちが攻めてくる映像。

Nova の脇を通りすぎていく。

スクリーンにプログラム言語と日本語テキスト。

「ここから先の『音』は、遮断してしまった。

聴けない。

何故か聴いたことのない生々しい『音』たちが、

脳内で勝手に補完して『再生』しようとしてくるが、必死に抵抗した。」

Nova 「嫌だ。

すごく嫌だ。

11 秒かけて大きく息を吐く。

そして 7 秒かけて息を吸う。

さあ、行くぞ。

わたしの強さの『音』よ、響け。」

07 プログラム【Goliath (2024Remix)】

(もっぴーさうんど)

演技後、スクリーン前の扉の前で座り込む Nova。
そこにルームの案内人の声がかぶる。

ルームの案内人「よくぞ、ここまで成長してこられました。
己自身と向き合い、認めることはできましたでしょうか。
貴方のチカラは『音』。
貴方自身の姿を認めたことで、よりいっそう貴方のチカラも命も強くしなやかになられたように感じます。
生まれた命は、いつかは終わります。
この世界も宇宙もまた同じ理のなか、古いものは終焉し、新しいものが生まれる定めなのでございます。
今は少しお休みください。」

心臓の鼓動の音。
そして吐息。

[第2部]

スクリーン下の扉が開き、Nova が出てくる。
氷上には別の扉があり、Nova はそれを眺める。

Nova「わたしとは、なんだ。
なんのためのわたしなんだ。
わたしの生とは、命とはなんなんだ。
わたしは開ける、この身体と命を持って。
命とはなんだ。
その『音』はわたしを包む。
やがてそのリズムを支配する主旋律となった。
この世界でわたしの役割とはなんだろう。
さあ来い、世界に取り残された憎悪たち。
わたしの正義の『音』をよく聴くといい。
わたしとはなに？

わたしはわたしを見つけたい。
わたしは、わたしの生きる意味を探したいのだ。
．．．．
『いま』ならできる。」

08 プログラム【アクアの旅路 (Piano Solo Ver.)】

(もっぴーさうんど)

スクリーンには廃墟の塔群。
Nova は一つの塔を登る。

そこにプログラム言語と日本語テキスト。
「わたしは、朽ちた石の階段を 1 歩 1 歩踏みしめながら、
終わりの見えない螺旋を登っていた。」

Nova はひたすら登っていく。

再びプログラム言語と日本語テキスト。
「朽ち果てた巨大な塔。
螺旋階段は無限に続くかのように
夜空に触れるほど高くそびえ立っていた。」

Nova はさらに登っていく。

再びプログラム言語と日本語。
「わたしはこの塔の『音』に呼ばれた。」

Nova はさらに登っていく。

再びプログラム言語と日本語。
「いや、正確には、
この『音』は、声に近い響きを持っていた。」

Nova はさらに登っていく。

再びプログラム言語と日本語。

「わたしは、この塔を登り切らなくてはならない。」

Nova はさらに登っていく。

再びプログラム言語と日本語。

「そんな焦燥感がじっとりとわたしの心臓を熱している。」

Nova はさらに登っていく。

Nova「わたしがこれまで経験してきたことに、意味はあったのか。

わたしが『問う』てきたものの答えは、意味はあったのか。

そもそも命は死んでいくものだ。

じゃあ、わたしの『いま』に、命など意味など必要ないではないか。

いや、そんなことはない。

わたしは生きたい。

毎日を生きたい。

何故、命の意味に、本当の意味に辿り着こうとするたび、

『いずれはどうせ死ぬのだ』という言葉に絶望し、抗うことができない。

命とはそういうものなのだ。

考えれば考えるほど辛くなるよ。

わからなくて、わからなくなつて、悲しくなるよ。」

公園で座り込む少年のイラスト。

Nova「街のはずれ。わたしは孤児だった。

そう、わたしは人間だった。」

少年に手を差し伸べる少女のイラスト。

少女の手をひき、少年から引き離していく大人のイラスト。

燃える住宅地のイラスト。

Nova「わたしがきっかけで、始まってしまった？

わたしは生まれる必要などなかった存在。

どうせいつか死んでしまうのだ。

考えるほど、命の意味を探るほど、苦しい。

わたしが。

わたしのせいで・・・」

登ってきた塔が崩れそうな音と揺れ。
そこに四角の白い線が現れると、誰かがNovaの手を引き、救い出す。
Novaの目の前にルームの案内人がいる。

ルームの案内人「あなたの手に大切に握られている言葉をお読みください。」

Novaは手を開く。
すると文字が現れる。

「愛してる
VGH-127」

再び少年に手を差し伸べる少女のイラスト。

ルームの案内人「あなたの求めている言葉はすべて『音』となり、あなたを救います。」

Novaは歩き出す。

Nova「わたしはひとりじゃ、ない。
それだけを希望として持って、前へ踏み出した。」

そして扉から出てくると衣装が変わる。

09 フログラム【Eclipse/blue】

(Nosaj Thing/真鍋大度&MIKIKO 映像)

演技にNovaのモノローグがかぶる。

Nova「運命は静かに囁く。
足元に影を落とし、ただその影を追うように、わたしは歩いていく。
運命は風。姿を見せずとも、見えないままに導く。
その風に身を委ねて、命は揺れながら進む。」

音楽が鳴り始まる。

Nova「歩む道が運命なら、誰がその道を刻んだのか。」

見えぬ手が、そっとわたしを押ししていく。
運命の糸は見えずとも、その指先に絡みつく。
解くこともできずに、わたしはただ絡まれていく。
いま、時は止まる。
動き続ける運命の中で、一瞬の静寂がわたしを包む。
運命は頑なに姿を変えないなら、わたしが変わろう。
世界を変えよう。
振り返ったら、希望の光芒が見えるように。
いまとは一瞬の光。
過ぎ去る間もなく、わたしの心に刻まれる。
それが次の歩みを導く。
いま、この瞬間だけが真実。
過去も未来も、ただこの一瞬に込められている。
それだけが命の証。
命が響いている。
静かな時の流れの中で、その音がわたしを満たしていく。
それがわたしの「いま」。
いま、この手に感じる温もり。
それは過ぎ去る運命の残響。
けれど、それがわたしを動かすチカラ。
記録が記すのは「過去」。
臨むべきものは「未来」。
生きている者の特権。
なら、上手に使おうか。
「いま」は未来の影を踏むように歩く。
「過去」の影は「いま」から離れることはない。
淋しいのだ。「いま」。
「いま」という刹那が永遠に続くパラドックス。
時計の針は止めどなく進み、止まっても尚、進む。」

スクリーンの前に Nova。
スクリーン脇には円柱の中で女性（イレブンフレイ）が踊る。
スクリーンの前には透き通った布のカーテン。
スクリーンにはテキストが映し込まれる。
カーテンの向こうには、スクリーンに廃墟の中に光る玉が浮いている風景。
カーテンがゆっくり上がっていく。
すると、光る玉がくっきりと映る。

10 プログラム【GATE OF STEINER -Aesthetics on ice-】

(シュタインズ・ゲートより)

Nova はステージ上の扉をくぐり演技を終える。

スクリーンには廃墟の街。
突然、植物や花が生えてくる。
鳥たちが跳ぶ。
そして蝶が舞う。
その蝶は Nova の指先に止まる。
そして再び舞う。

Nova は廃墟の街を歩く。
花を見つけ、手を差し出すと、いろいろな種類の花に変わっていく。
再び Nova は歩く。
水辺があり、その上を歩いていく。
水辺には廃墟とともに、青い空が映し出されている。
教会のような場所にたどり着く。
そして Nova のアツス。

Nova「わたしの『いま』は、何本にも分かれたスタート地点の同じ電線みたいなものだと感じている。
きっと、わたしの『いま』は、複数の電線を同時に流れている。
それぞれの電線でいろいろなことが起きては消えていって、
いろんな『いま』を、いろんな『わたし』が生きている。
隣の電線で起こっている『いま』を見ることも自覚することもできないけれど、
わたしはこの考え方が好きなのだ。
わたしがいるこの世界線には、とても苦しいことも、とても悲しいこともあったけれど、
わたしは『いま』ここにいることを一生懸命頑張りたい。
運命が決まり切った世界で、その運命をとびっきりの笑顔で迎えられるように、
綺麗な顔で迎えられるように。
さあ、再生の『音』を奏しよう。」

氷上の周りが緑色の光で覆われていく。
ステージには丸い緑色の光。

11 フログラム【Danny Boy】

複数の扉とたくさん書物が集まっているような不思議な空間に Nova はいる。
書物のページが舞い始める。
Nova は胸に手を当て、祈りを捧げる。
そして上を見上げて Nova も舞う。
書物のページの舞いはどんどん勢いを増す。

Nova「人間とはかくも欲深い生き物である。
命とはなにか。
わたしとはなにか。
いまとは。
時間とはなにか。
運命とはなにか。
生きるとはなにか。
『問い』が次々と浮かんでは消え、
次の瞬間にはまったく違うことの可能性に触れ続けている。
そして人間は命に意味をつけようとする。
恐ろしいほどにもろく、
ぞくりとする偶然の連なりを運命と呼ぶのなら、
その日、その時で変化してしまいそうなほど、
心のやわらかい役割を命に持たせることを奇跡と呼ぼう。」

書物のページは風のようになり、Nova の胸に集中する。
突然、ルームの案内人が現れる。

ルームの案内人「おめでとうございます。
貴方は命の答えにたどり着いたのですね。
またひとつここに命の答えが生まれる瞬間に立ち合わせていただき、
そして貴方と旅路を共に歩むことができ、
非常に幸せでございました。
それでは、貴方の命の答えに、幸多からんことを。」

Nova「問いを続けることは苦しみを伴う。
しかし、続けていく。
一番やわらかいところを守れるように。
さあ、行こう。」

始めよう。
わたしの、命の意味。
命の役割を、果たそう。
この世界に「命」の「音」が響き続けるように。」

Nova が扉を通ると、Nova のままの衣装。

12 プログラム【全ての人の魂の詩】

(ペルソナ3「ペルベットルーム」より/目黒将司)

演技中に 10 つの扉が下りてくる。
演技をしながら、ひとつひとつくぐっていく。
Mass Destruction、Goliath、アクアの旅路、ダニーボーイ等の振り付けを再現し、ステージ上の最後の扉をくぐる。

スクリーンにエンドロールが流れ、終了。

[アンコール]

千葉公演千秋楽には「Echoes of Life」に関する想いについて語ってくれましたので、その部分のみ書き起こします。

羽生「えー、というわけで、えー、エコーズが、なんか、えー、ねっ、あの、Nova を見送ったなという
ような気持ちでおりますが、本当に全魂を込めて、本当に滑らせていただきました。

えっと、この物語には、んと、日本語でなんか表現するのが、僕は本当スケートで表現するほうが得意なので、日本語で表現するのがとても難しいと思うのですが、うん、なんか、僕の根源ですけど、常にみんなが、んと、生きていることって、とっても自然で、とっても奇跡的なことで、うん、運命に翻弄される人も、運命を信じ続ける人も、そんな未来を望み続ける人も、いっぱいいる世の中で、どうかどうかちょっとでもこの『今』という瞬間を生きているんだということを、ちょっとでも感じてほしいし、みんな、思っているよりもみんな強いんだよ！って、強く生きているんだよ！ということ、祈りとともに言葉とスケートでしたためのストーリーです。

どうか、もうね、エコーズは、へへへ、終わっちゃうけれども、けど、あの、どうかね、みなさんの中で少しでも今日が、このストーリーが、僕のスケートが、映像が、演出が、そしてイレブンスレイのスタッ

フが、ちょっとでも未来に歩きたいって思える瞬間だったらいいなと思っております。
苦しいこともたくさんあるし、人生綺麗事ばかりじゃないことはみなさんが一番わかっていらっしゃると思います。突然の、うん、苦しいこととか、突然希望が失われたりとか、そういうことってこの世の中たくさんたくさんあるんだと思います。それでもみなさんはここにいて、これを見て、これを聴いていて、そんな瞬間は、絶対に細胞自体は生きているし、絶対にこれからも生きたいって動き続けてくれるので、どうか信じて受け止めて進んでやってください。これからもエコースがみなさんの人生にとって、生きるきっかけになったら、うれしいなと思っています。本当にありがとうございました。
はいっ。はい、重い話をしました。でもね、へへへ、でも伝えたかったことは、まあストーリーにすべて詰め込んでいるので、今更蛇足かなと思いつつも、でも、あの、自分自身もちょっと感極まっているところもあって、えー、改めて言葉で、えー、今一度説明させていただきました。」

[アンコール1]

Let Me Entertain You (観客振り付き)

(各公演共通)

[アンコール2]

阿修羅ちゃん

(各公演初日)

MEGALOVANIA

(各公演2日目)

[アンコール3]

SEIMEI

(各公演共通)

[フィナーレ&周回]

私は最強

(各公演共通)